

研究要旨

がん臨床の現場で有用性の高いアウトカム評価まで可能な普遍的がん登録システム JNCDB を構築し、JNCDB の本格運用に向けた feasibility study（情報共有試験）を行った。日本食道学会と協力して食道がん固有の臨床情報を網羅した新たな登録データベースを構築・運用し、2001～2006 年全国登録結果を解析し結果を公表した。

A．研究目的

がん臨床の現場で有用性の高いアウトカム評価まで可能な普遍的がん登録システムである JNCDB を構築し、その本格運用に向けた feasibility study（情報共有試験）を行う。日本食道学会全国登録委員会と協力して JNCDB と整合性を持つ新たな食道癌データベースを作成し、食道癌全国登録を推進する。集積されたデータをもとに各種アウトカム解析を行う。

B．研究方法

1. 本研究班で開発された主要ながん腫（肺癌、食道癌、乳癌、子宮頸癌、前立腺癌）の JNCDB の feasibility study（情報共有試験）結果を基に本格運用に向けたシステム改良に関わった。
2. 本研究班による患者個人情報に関するセキュリティシステム構築を土台に、食道癌登録システムを構築し、日本食道学会登録委員会と協力して 2001 以降の食道癌全国登録作業を開始した。

（倫理面への配慮）想定される個人情報保護への対応として、JNCDB 個人情報保護規約の策定とその遵守の重要性を確認。

C．研究成果

1. feasibility study（情報共有試験）の結果を基に項目の重みづけを行うことで各疾患における JNCDB 入力データ項目の再構成を行った。

2. 日本食道学会との協力で食道癌全国登録 2001～2006 年分が解析され、Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2001～2006 としてそれぞれ出版された。内視鏡的粘膜切除術、同時併用化学放射線療法、放射線治療単独、化学療法単独、外科切除による 5 年生存率等各種アウトカムデータが示された。現在、2007 年および 2008 年分が解析中である。

D．考察

本研究班で策定された JNCDB 各調査項目は、情報共有試験の結果 quality measure としての意義が評価され、アウトカムを含む疾患固有の情報を提供可能な普遍的なデータベースが構築された。平成 26 年度には本格的な運用が予定されている。食道癌全国登録により集積されたデータを解析することで、アウトカム評価まで可能であることが示された。

E．結論

JNCDB の情報共有試験が終了し、アウトカムを含む疾患固有の情報を提供可能な普遍的なデータベースであることが示された。食道癌全国登録が再開し、アウトカムデータを含む疾患固有の臨床情報を提供した。

F．研究発表

1. 論文発表
Ozawa S, Teshima T, Uno T, et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2002 Esophagus 2010;7:7-22.

Ozawa S, Teshima T, Uno T, et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2003 Esophagus 2011;8:9-29.

Ozawa S, Numasaki H, Uno T, et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2004 Esophagus 2012;9:75-98.

Ozawa S, Numasaki H, Uno T, et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2005 Esophagus 2014;11:1-20.

Tachimori Y, Ozawa S, Numasaki H, Uno T, et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2006 Esophagus 2014;11:21-47.

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし